

教えてはちくん!木づかい通信 Vol.9



大館市観光キャラクター

「はちくん」

※チェンソーマンVer.

テーマ

木材利用を阻害した 木材利用合理化方策

～昔は「木材を使わないようにする」施策があった?～

令和3年12月
産業部林政課

本資料は林知行 著「目からウロコの木のはなし(技報堂出版、2020年3月)」を引用し、作成しています。

テーマ「木材利用を阻害した木材利用合理化方策」

教えてはちくん!



現在、「ウッド・チェンジ」、「ウッド・ファースト」といった木材利用を促進する運動が日本全国で展開されていますが、戦後における最初の木材利用に関する政策転換で、後々、木材利用に大きな影響を与えることになった「**木材利用合理化方策(1955年)**」という施策がありました。これは、木材を上手く使っているという方針ではなく、全く逆の「**これからわが国では木材を使わないようにしましょう**」と決めた閣議決定だったのです。

「目からウロコの木のはなし、P84～86」



もう少し詳しく

木材利用合理化?なぜ?

～閣議決定に至るまでの流れ～

当時の日本の状況として、

- ・森林は戦時中の乱伐と戦後の復興需要によって、荒廃状態にあり、伐採が続けば日本中がはげ山だらけになってしまうと考えられていた。
- ・鉄やコンクリートが容易に入手できる現代と違い、当時の建設資材の多くは木材であり、煮炊きから暖房まで、生活用のエネルギーの多くは木材に依存していた。



各省庁が寄り合って、国産材の需要抑制と様々な産業分野での代替材料開発を推進することに

<1950年12月>

- ①木材利用合理化協議会で、木材利用合理化を促進する
 - ②協議会に、木材需要主務官庁が各々主体となり専門分科会を作る
 - ③専門分科会ごとに普及促進を行う
- などが申し合わされた。

<1951年3月>

協議会の構想がまとまり、各官庁における担当分野が決定。
専門分科会では、

- ・代替資源利用（鉄筋コンクリート造促進、木炭からの燃料転換等）
 - ・木材消費節約（段ボールの利用、クレオソート増産、古紙回収等）
 - ・樹種転換（広葉樹や廃材のパルプ化）
 - ・需給調整（不急もしくは代替可能の部門に対する使用制限措置）
- などの方針が打ち合わせされた。

<1955年1月>

「**木材資源利用合理化方策**」が閣議決定。

⇒「木材をもっと使いましょう」という立場からすると、とんでもない施策だと思われるかもしれませんが、当時の状況を踏まえると、木材の枯渇について相当な危機感があったことが想像できますね。現在、「持続的な」、「持続可能性」といった言葉がよく使用されていますが、改めてこの言葉が持つ意味や重要性を考えながら行動しなければならないと思った次第です。